

邸園の概要

※特別なイベント以外は非公開です。

所在地 大磯町西小磯 85
建設年 大正 14 年 (1925)
※当初建物は、明治 27 年 (1894) 築
構造 木造／平屋建／棧瓦葺入母屋造



明治ゆかりの邸園

旧陸奥宗光邸は、明治期に政治家として活躍した陸奥宗光にゆかりのある別荘です。

邸園の概略

陸奥宗光は、明治 27 年 (1894) に自身の療養のため大磯に別邸を構えました。

陸奥は、明治 25 年 (1892) に第 2 次伊藤博文内閣の外務大臣に就任すると、明治 27 年の不平等条約の改正、翌年の日清戦争勝利に貢献しました。しかし、外務大臣として多忙の日々が続き、持病の肺結核が悪化、伊藤博文の進めもあり明治 28 年 (1895) 5 月から療養することとなりました。療養中には日清戦争の備忘録「蹇蹇録」を執筆、後世に語り継がれる名著となっています。しかし、療養中にも日清戦争の戦後処理などで多忙が続いたこともあり、明治 30 年 (1894) に 54 歳で亡くなりました。

その後、宗光の次男で、古河市兵衛の養子潤吉が当別邸を譲り受け、関東大震災で建物が損傷したため、大正 14 (1925) 年に建替えられました。

現存する入母屋の数寄屋風の建物は、以前の原形を残して再建され、「聴漁荘」と名付けられています。玄関を入ると取次の間を経て、北側に書生室、南側に 2 間続きの応接間兼主人室があり、三方畳廊下が廻ります。

西側には 10 帖と 8 帖の家族用の部屋が続き、家族室の北側には洗面所や浴室等があり、浴室には当時からシャワーが備えられていました。浴室と化粧室の間の床張りが、隣接する旧大隈重信邸の廊下と同じデザインであることから、同じ職人が出入りしていたとみられます。

この建物と西館の間には竹林や果樹園、北東側には稲荷様があり、前面には広い庭園があり、松林、海へと続いています。

写真提供：大磯町

出典：『大磯のすまい』大磯町教育委員会、1992

『日本の別荘・別邸』『別冊太陽』平凡社、2004